

# 業務用全トラックに搭載

## ドライブレコーダー

### 安全運転と省エネ促進

県内運送業大手の芳賀通運(真岡市鬼怒ヶ丘、塚本美貴吉社長)は、運転状況を記録するドライブレコーダーを、所有する全トラックに導入した。同社は運転記録からドライバーの運転の傾向を分析し指導を行うなど、安全運転教育に活用。事故の減少や燃費の大幅な削減も達成するなど効果を上げている。同社が加入する県トラック協会は「協会内でみると、芳賀通運の試みは先進的」と評価している。

ドライブレコーダーは、アクセル操作、運行経由、エコドライブ管理システムなどを記録する。同社は、昨年三月から、カメラとレコーダーの装着状況や速度、ブレーキ、備に着手した。車載機本

#### 真岡の芳賀通運

体は一台約二十五万円、同十月末までに通常業務で使用する二百五十六台に完備した。

運送業務終了後、運転手は事業所内の専用ソフトが入ったパソコンに、運行を記録した媒体を入れる。ハンドル、ブレーキ操作、右左折時の走行方法など五項目それぞれ二十点ずつ、計百点で採点し数値化、危険な操作は映像で映し出される。同社によると、導入後、急発進、急ブレーキが減り、一辺あたりの走行キロ数が10・6%向上したという。

さらに運行記録を、渋滞・危険個所の発見に役立てており、藤井保常



運転席付近に取り付けられたドライブレコーダー。運行データを記録し、安全運転、燃費削減に効果を上げている。真岡市の芳賀通運

さらに運転技術向上、運行コースの見直しなど活用していきたい」と話す。

全日本トラック協会は、二〇〇六年度からEMS補助金を出し、普及に取り組んでいる。県内では、一事業所当たり十台まで同協会から一万円、県トラック協会から四万円の導入補助がある。

同社にレコーダーの活用を助言したソフト販売の「IBC」(宇都宮市今泉新町、篠原寛社長)は、県内外七十社にレコーダー約千二百台を販売した。篠原社長は「軽油が高騰する中、燃費改善のツールとして注目されている」と話している。